ＪＰＮタク車いす問題 対応を

自交総連東京が夏季集会

自交総連東京地連（高城政利委員長）は3、4の両日、栃木県日光市のきぬ川ホテル三日月で夏季研究集会を開催、２０１８年度運動方針に白タク合法化阻止のほか、賃上げ・底上げ闘争の強化や乗務員負担費用の撤廃などを掲げた。

高城委員長は「ライドシェアの合法化を阻止し、タクシーのサービスを向上させていくことが業界を良くする運動だ」とした上で、トヨタ「ＪＡＰＡＮタクシー」の車いす乗降問題に言及。

「ライドシェア阻止が業界を良くする運動になる」と強調する高城委員長（3日、栃木県日光市）

「ノンステップバスのように車高が下がるようにするなど、トヨタとタクシー事業者団体は真剣な対応が求められる。ライドシェア勢力にタクシーを攻撃する口実を与えることになる」と危惧した。

川崎一則書記長は今春闘を振り返りながら、「最低賃金の引き上げなど賃金の底上げ闘争を強化する。労働条件の改善こそが良質な労働力の確保、輸送の安心・安全を担保するとの理念に確信を持ち、業界全体の変革を図らなくては」と呼びかけた。

本部の菊池和彦書記長が講演。「売り上げが増えなければ労働条件は良くならない。多すぎるタクシーを減らす必要がある」とし、二種運転免許の上に創設する「タクシー運転免許」構想を改めて提起。「運転者の数を制限でき、地位の強化にもなる。経営者との関係では交渉力がアップし、労働条件改善につながるだろう」と述べた。

ＪＰＮタク車いす問題

「手を動かし練習を」

東タク協乗務員指導委

トヨタ「ＪＡＰＡＮタクシー」の車いす乗降問題に関し、4日の東京ハイヤー・タクシー協会の乗務員指導委員会で意見が交わされた。村澤儀雄委員長は「乗降できないイメージになってしまっている。実際に1、2回、手を動かして練習すればできるようになる。車いすの方も急な移動が必要なことがある」と、万全の対策を呼びかけた。

同委員長は「組み立ての練習をして分かったが、スロープを2枚、客席の下に重ねて置いたり、車いす固定ベルトを一部止めておいたり、前もって準備すれば時間はかからない。スロープが1枚でも、なくても、大型の電動車いす以外は乗せられる」と話した。

8月5日の「タクシーの日」に合わせ、7月30日から5日間、恒例の夏期特別街頭指導を実施することを決定。東京駅八重洲口や新宿駅西口地下など10カ所でドア・トランクサービスと禁煙指導をする。銀座の新幸橋周辺、交詢社通り、六本木交差点などで不適正営業車を監視する。

バスタ新宿でタクシーの危険行為が起きていることが報告され、今年4月7日から6月3日までの11件の概要が示された。

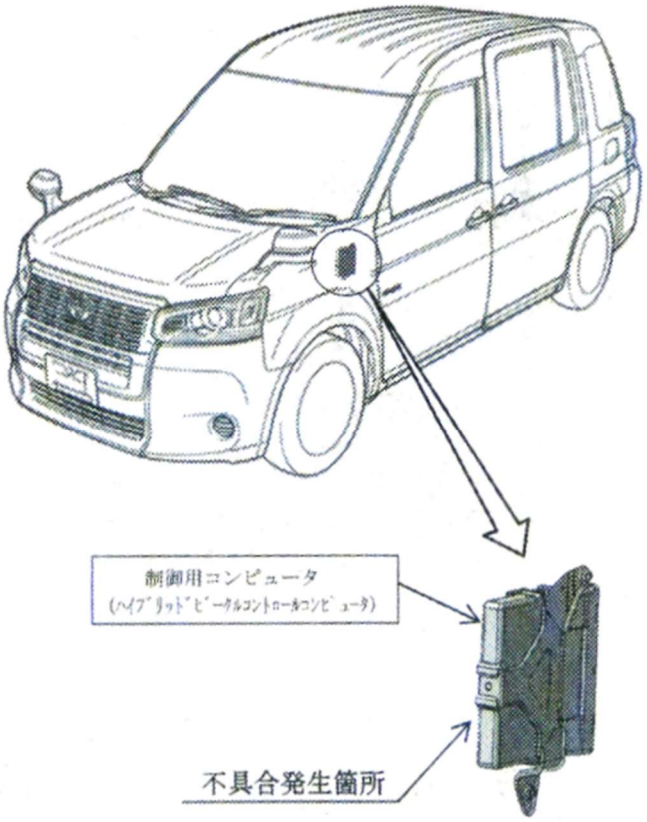
埼玉で物損事故も

ＪＰＮタク不具合「ブレーキしっかり」

トヨタ自動車の「ＪＡＰＡＮタクシー（ＪＰＮ　ＴＡＸＩ）」でシフトロック装置の不具合が発生し、４日、メーカーから改善対策が国土交通省に届けられた＝イラスト。６月５日に埼玉県内で、不具合により、フロントバンパーを損傷する物損事故が１件起きていた。市場からの情報で発覚した。▼１面参照

トヨタは「制御プログラムが不適切なため、停車中ハイブリッド用エンジンが、始動時か停止時にシフトロックが作動しないことがある」と説明。「ブレーキを踏まずにＰレンジから、ＤかＲレンジにシフト操作可能となり、意図せず車が動き出すおそれがある」としている。全国で売り出した全６４６１台を無償で修理し、シフトロック制御プログラムを修正する。

導入したタクシー事業者に電話やメールで通知し、最寄りの取り扱い販売店に日程を相談の上、修理を受けるよう求めた。作業時間は約45分。「修理までの間も今まで同様、確実にブレーキを踏んでシフト操作をすれば問題はない」と呼びかけている。



事業者　トラブルの懸念少なく

東京ハイヤー・タクシー協会の根本克己環境・車両資材委員長（境交通社長）は「トラブルや事故の危険はないと思う。６０００台も台数が多い点は心配だが、迅速に対応してもらえるのでは」と話している。国際自動車の牛久恭文取締役タクシー事業部長は「乗務員への教育で、必ずブレーキを踏んでからシフトレバーを操作するよう徹底している。事故、トラブルはあり得ない」と見ている。

改善対策は、道路運送車両保安基準（国交省令）に規定されていない不具合が発生し、「安全確保・環境の保全上看過できず、原因が設計・製作過程にある」と認められるときにメーカーが改善措置を行うもの。同基準に適合しない、または適合しなくなる状態が起きるリコールとは異なる。